

去る3月8日に、安田女子大学内にて、同学の学生を対象とする合同企業説明会が開催されました。対象は同学3年生、短大1年生が約780名、薬学部5年生が約70名となっており、参加企業数は58社、うち、半数以上が病院、調剤薬局、ドラッグストア等の医療関係企業が占めていました。形式は、ブース形式による少数面談方式（20分×7回、その後に自由な説明時間30分程度）にて、各社を希望する学生に会社概要や採用計画について説明をするというものでした。各社、幟を立て、少しでも社風が感じられるようアピールしたり、在職中の卒業生を案内役として少しでも自社のブースに学生が入りやすいよう、学生の取り込みに力を入れておられたりと、各社の企業説明会に対するただならぬ意気込みが感じ取れました。今回は安佐薬剤師会ブースのサポート役として参加した私ですが、企業説明会自体、初めて経験する自分にとってみれば全てが刺激になる景色で、競争社会に身を置く企業、並びに学生に尊敬の念を覚えました。



そのような企業説明会に安佐薬剤師会としても初の参加となり、全てが手探り状態で始まった今回の企業説明会。今回は参加を希望された10社を、安佐薬剤師会のブース内でテーブルで横一列に配置するという形を取りました。各社、自社のパンフレットをブース窓口に並べ、各社の特徴をアピールし、学生実習を受けておられる薬局に関しては、実習生やその友人達を招いたり、中には積極的な勧誘で学生を自社のブースに招くなど、各社の色が出る「学生争奪戦」が安佐薬剤師会のブース内だけでも繰り広げられていました。そして、学生の確保ができた薬局では、各社用意した資料を基に、学生からの質問も受けながら熱心に説明をされていました。学生からの積極的な質問が出ている薬局もあり、学生側の熱心さも伝わり、手応えを感じた薬局もあるのではないのでしょうか。そして、20分の持ち時間が終了後、安佐薬剤師会のブースに来て話を聞いてくれた学生には、地元の洋菓子店のお菓子を振舞うなど、地元の調剤薬局ブースならではの心遣いに、学生も笑顔を見せてくれていました。学生にしっかり自社のア

ピールができたところとそうでないところ、明暗が分かれるところですが、全体的に和やかに時間が過ぎていった感じがしました。

しかし、今回、安佐薬剤師会で参加された各社からの説明会を終えての感想ですが、安佐薬剤師会ブースの場合、各社が隣合わせで説明をする場合、近すぎてパーテーションがほしいなど、安佐薬剤師会ブース内での個別ブースが小さいと言った意見や、安佐薬剤師会ブースに窓口があることで奥の方の会社に学生が流れず、単独ブースの企業に学生を取られるなどの意見、安佐薬剤師会の隣のブースに来場する学生が多く、それらの学生で自分たちのブースが占領されてしまったなど、今後の課題となるものも見つかりました。それ以外にも、薬学部生とそれ以外の学生の区別が付かず、ブースに勧誘しづらいといった難点も見つかり、もっと安佐薬剤師会ブースを盛り上げたかった立場としては、大変力不足を感じたところでもありました。しかし、今回のこの初の参加で各社がそれぞれに課題を見つけ、来年以降の説明会参加に意欲を燃やしていらっしゃる事が、安佐薬剤師会としては何よりの収穫ではかならうかと思えます。そして、企業の方から動かなければ有能な人材は確保できないという現実を、私自身実感できたことを大変個人的な収穫にはなりますが末筆に加え、今回の企業説明会の感想とさせていただきます。



(広島市薬剤師会もブースを出していました。)